

## 市民会館リニューアル計画（素案）に対するパブリックコメントの結果について

募集期間 : 平成23年8月1日～8月31日

応募件数 : 21件（11名）

番号	意見等	回答
1	<p>弘前市民として慣れ親しんだ市民会館ですが、築後半世紀近い年月が経っている事に驚きました。頂きました資料を熟読しましたが、私なりの意見は以下のとおりです。結論としては、{1.弘前市民会館が現在抱えている主な課題}に記載されている懸案事項と{2.リニューアルの目指す方向性}は相容れないものと思います。時代の変遷に沿って行くことが出来ない現状の施設概要では高額なリニューアル予算をかけても相応の効果は望めないと思います。歴史的建造物としての価値は大いに認めますが今後50年、100年後の市民会館としての価値は無いと思います。弘前市も予算上の問題もあると思いますが、文化都市、観光都市を標榜するのであれば最低限のパブリックアメニティーは必要だと思いますので、弘前公園敷地内に制約される事無く、新たな場所に施設を建築しても良いのでは？と考えます。勿論、新会館建設時は弘前市民からも特別徴収金はあっても良いのでは？と考えます。弘前市に生まれてもうすぐ59年になりますが、文化的にも優れており小洒落た街です。関係者の労苦に感謝致しますが、全国に自慢できる新市民会館の建設を切望するものです。</p>	<p>全国的なコンサートなどの開催を考えた場合、採算性などを考慮することから、2,000人規模の会場が理想とされており、この規模の会場を有していない本市においては、一流の芸術に触れる機会を逸す機会が多いことは認識しています。</p> <p>一方、現在の市民会館は、昭和39年に文化都市弘前市のシンボルとして建設され、半世紀近くを経た今でも多くの市民に利用されているとともに、市内に存在する8つの前川國男の歴史的建造物群のひとつとして、後世に引き継ぐべき大切な財産として認められています。</p> <p>このことから、新会館の建築と現会館のリニューアルの両面から検討しました。</p> <p>新会館を建築した場合、新たな財政負担などのほか、歴史的建造物群のひとつである現会館や優れた立地環境、定評のある音響特性を有したホールを失うことなど考慮する必要がありました。</p> <p>反面、リニューアルを選択した場合、ハード的な面において解決される部分と、構造上の問題から100%満足できない部分があることも事実です。これらを総合的に検討した結果、現会館のリニューアルを選択しました。</p> <p>しかしながら、本市の人口規模を考慮した場合、2,000人あまりの観客を収容する新会館建設の必要性については、中長期的な課題として認識しており、実現の可能性について、引き続き検討したいと考えています。</p>
2	<p>テラスについて、現在、テラスはどのように利用されているのか。また、今後どのように利用する計画があるのか。</p> <p>先日の懇談会では、主に舞台を利用している当事者からの要望が大半で、舞台及び周辺の楽屋、トイレ、シャワールーム等が狭く、数も少なく、設置場所も不便で使い勝手の悪さの指摘が目立ちました。これに対し市の説明は、理解はするが要望を満たすのはなかなか難しいとのことだったと思います。上記を解決するには、現在の限られた面積しかない狭い建物の中での造作は無理だと思う。建物の北側に必要に応じた別棟を建築してはどうだろうか。北側であれば景観上の問題はさほどないと思われる。但し、城跡保存管理計画区域内の諸規制等に抵触するのであれば、一考を要するかもしれない。</p>	<p>管理棟とホール棟を結んでいる車寄せ棟の屋上についてのことだと思いますが、現在は避難用経路としてのスペースのみで、他の用途には利用していません。</p> <p>しかし、この度の整備では、有効活用策として、オープンカフェの設置等により、市民が気軽に立ち寄れる場としての整備、利活用について検討しています。</p> <p>楽屋、楽屋トイレ、シャワー室については、狭隘な環境などを解消するため、間取りの変更、楽屋の増設等の可能性を考えながら大幅な構成変更について検討します。</p> <p>また、大ホール北側への別棟の新築については、史跡津軽氏城跡保存管理計画において、市民会館は将来において移転を検討しなければならない建物とされていることや、文化庁により建物の増築・新築は一切認められていないことから、困難と考えています。</p>

番号	意見等	回答
3	<p>ホール催事の観客、管理棟の利用者としての経験、体験はあるものの演者としては論じる立場にはなかったので楽屋などのバックヤードについては申し述べません。しかしそのことを考慮にいれていかに折合いをつけるかを念頭におきながらヘビーユーザーからの愚見です。会館外周の植栽の根による排水管路の閉鎖障害を解消する必要に迫られているようですが、この改修については、以下の基本的スタンスで対処していただくよう伏してお願いたします。地下に埋設している排水管路の配置、形態で解消すること。昨今の技術進展のチェックを怠りなく収集してください。そうは言っても対費用効果や技術的な面で排除せざる得ない局面に接したらまず移動してください。青山学院大学が厚木キャンパスを棄てて相模原の某製鉄会社の研究跡地に移転した際、ほとんどの巨木、古木を伐採せず残し、空いている空間に各施設を建設して高い評価を受けました。前川建築のコンセプトは建物とロケーション、景観とともにあることはいまさら論ずるまでもないことですよね。</p>	<p>市民会館のケヤキは、昭和39年に竣工したときに植林され、年月を経た今日、その他の松の大木と併せ、市民会館の景観形成に大きく寄与しています。</p> <p>今回のリニューアルでは、一部旧図書館跡地に隣接する植栽の移植等は検討していますが、基本的に樹木の伐採はせず、手入れしながら現状を維持したいと考えています。しかし、枝折れ等による利用者の危険回避のため、伸びすぎた枝葉の剪定については、これを機会に実施する予定としています。</p>
4	<p>ホールの客席の件について、背もたれの角度を調整する程度では、狭さの解消には全くつながりません。座席に座って足を置くスペースをぎりぎり確保できる程度なのに、同列の人が横に入るとき、足を進めるスペースが更になくなり、窮屈そのものです。全席数を現状のままで芸術鑑賞の快適性を高めようとしても、それは無理です。背もたれを工夫する。また、座席数は狭くても現状を維持したいのでは、何一つ解消されることにはならないし、どっちつかずの状態になることは目に見えており、無駄な費用をかけるべきではありません。収容数1,300名ではビックイベントはとても無理なので、せめてこの際、屈指といわれる音響特性をいかに、座席だけは思い切って100や200席減らしても快適なホールとし、音楽芸術の殿堂にしてはどうか。屈指の音響特性を持つホールは、現状のまま、また、座席数も現状ままでと考えていると説明があった。これでは市が標榜する「客席の改善等現代のニーズに適応した思い切った改修が必要・・・」「利用者、観客的確かなニーズに対応」また「客席の拡幅により快適性を高める」ということに整合性はなく、何もやらないのと同じことだと思う</p>	<p>ホール客席の階段の前後幅は、前中央部、後部は900mm、中央通路から前の利用サイドの斜めの部分は870mmとなっています。現在新たに建設されている他市のホールの標準的寸法は、900～950mmで設計されているのが現状であり、今回のリニューアルでは、客席についても、左右幅を40mmほど拡幅し、形状については、着席姿勢を考慮し人間工学に基づいた座席設置することから、前後幅は十分とは言えませんが、快適性は向上します。</p> <p>なお、客席の前後幅を拡幅した場合、客席の段々を再構築し、ホール全体の改修が必要となることから、専門家に確認したところ、定評のある音響特性の維持が困難との見解を得ています。</p>
5	<p>1階エントランス・ロビーの天井高さについて、とにかく天井が低い。圧迫感で潰されそうです。2階ロビー（ホワイエ）は天井まで十分な高さがあるので、2階の床を上げた場合に客席への出入りが構造的に可能であれば、改修にしろ、新規にしろ、1階天井は高くすべきである。現状の天井高さは、1階と2階が逆であればベターだと思う。</p>	<p>前川國男は、フランスのル・コルビュジエに師事し、日本における近代建築の礎を築いた一人です。</p> <p>前川の目指した建築は、建物内での人の動線、感覚（人の心の動き）を考慮し、空間と空間の繋がり、変遷を大切にされた構成がなされています。</p> <p>市民会館の場合も、景観を考慮しながら、管理棟・ホール棟を低い天井の車寄せ棟でつなぎ、管理棟は星空のような照明による解放されたロビー空間、大ホール棟は2階ホワイエへの階段と重厚なコンクリート造形、印象的なカラーリングを基に、上部に開かれた大空間を構成意図として、また、客席内は1スロープにより、分割されない大空間を基本に、芸術鑑賞に来た観客に対する期待感の高揚のための醸成空間を表現しています。</p> <p>以上のことから、1階の天井を高くするご意見に対しては、設計者の意図とは合わなくなります。また、構造的にも、基本構想からの練り直しを必要とし、現実的には不可能です。</p>

番号	意見等	回答
6	<p>将来の多目的ホールを持つ会館建設について、一般的には人口1.0%～1.2%、弘前市であれば、2,000名以上の収容ホールが必要と考えられます。1,300名程度の収容であれば、人口5～6万人の街でもたくさんあります。市としては、2,000名程度の規模の会館建設は考えていないようですから、これからビックイベントは弘前を通過することになります。何年か、何十年かが空白になり残念です。経済効果も失います。</p>	<p>全国的なコンサートなどの開催を考えた場合、採算ベースなどを考慮することから、2,000人規模の会場が理想とされており、この規模の会場を有していない本市においては、一流の芸術に触れる機会を逸していることは認識しています。</p> <p>今回のリニューアルによっても市民会館は、1,350席前後の収容能力しかありません。このことから、著名な演奏家、タレント等によるコンサートは、採算ベースで考えた場合開催しにくいのも事実であります。</p> <p>このような課題の解消のため、市民の芸術観賞の機会を拡大するような手法についても検討していきます。</p> <p>しかしながら、文化都市を標榜する本市にとって、また、本市の人口規模を考慮した場合、2,000人あまりの観客を収容する新会館建設の必要性については、中長期的な課題として認識しており、実現の可能性について、引き続き検討したいと考えています。</p>
7	<p>私は45年前にバレエで初めて舞台を使わせてもらい、それ以来子供の学習発表会、そして今もバレエで舞台を使わせて頂いている市民の一人です。確かに老朽化はそうですが、何十億というお金を使ってリフォームが良いのでしょうか。狭い舞台といい小さくて設備の悪い楽屋、照明さん、音響さんが別室で出来ないのが舞台袖で窮屈な思いをしながら、今まで事故が起らなかったと思うほど悪条件での仕事、スペースがそのままどれくらい向上できるのか疑問です。似たような文化センターもあります、そうではなくもっと大きな舞台で大きな幕をそのまま使い、全幕できて集客数を多くして東京等からもっと芸能、文化、著名人を呼べるような立派な施設のために予算を組み込んだほうが将来の子供たちの為になると思います。</p> <p>前川國男氏の素晴らしい建築物はそのまま展示館、もしくは博物館と一体にして美術方面に力を入れ、弘前文化芸術に役立てて欲しいと思います。</p>	<p>市民会館は多目的ホールではありながらも、基本的設計は音楽ホールの性格を強く出した設計となっています。</p> <p>舞台の板の張目方向、1スロープで構成された客席、多重反射防止のための壁面の左右非対称な音響拡散板の設置などから、その意図が強く感じられ、このことは客席のどの位置に着席しても演奏会の楽器の豊かな響きがかかり聴こえるように配慮した音響設計となっています。</p> <p>多目的な利用で考えた場合、搬出入の難しさ、舞台袖の狭さ、舞台間口の狭さなどが気になりますが、多くの利用者は、狭いながらも工夫を重ね使用しています。</p> <p>今回のリニューアルにおいては、スペースの拡大が見込めないことから、楽屋については大幅な配置変更による改修のほか、エレベーターの設置も検討しているところです。すべての課題が解決されるものではありませんが、出来る限りニーズに沿った整備を心がけたいと考えています。</p> <p>しかしながら、文化都市を標榜する本市にとって、また、本市の人口規模を考慮した場合、2,000人あまりの観客を収容する新会館建設の必要性については、中長期的な課題として認識しており、実現の可能性について、引き続き検討したいと考えています。</p>
8	<p>ホール内について、先ずは音響ありきだと思います。リニューアルのメニューの項目でそれを施す事によって音響が落ちるのであれば絶対に避けるべきです。全てに優先して考えて下さることを希望します。</p>	<p>ホール客席の更新、天井面の張替え、壁面のリフレッシュ等を実施しますが、少なからずとも音場の響きの変化はあります。</p> <p>しかしながら、現在の音場測定技術、シミュレーション技術により、客席の形状、材質、天井面の材質、壁面のリフレッシュ方法等について細心の注意を払いながら施工を進めることにより、音場の変化を最小限に留めることは可能です。全体的バランスを考えながらリニューアルを進めたいと考えています。</p>

番号	意見等	回答
9	<p>今後40年、50年と長期に亘って使用する会館だという意識のもと中途半端なりリニューアルではなく、演出者、出演者、観客が快適な時間を楽しめる空間にして欲しい。中途半端なりリニューアルはお金の無駄遣いです。座席が狭くて、臨席の人に気を使います。ちょっと大柄な人や、冬の着膨れた格好のときは非常に窮屈で、臨席を荷物置きにして一人で2席使用する人もいます。他市、他県からのお客様にも座席が小さく、通路が狭いと評判が良くありません。前列との間隔が狭く、席を立てて通路が狭いと評判が良くありません。前列との間隔が狭く、席を立てて通路に出るとき、座っている人の迷惑になります。座席前の通路は座っている人のあまり迷惑のならないくらいの間隔、せめてあと10～15cmはとってほしいです。座席数を減らし、例えば1,000人ホールになってほしいと思います。座席の配置は、前列の席と席の境に、後列の座席中央がくるように、ずらして配置してほしい。（前列の人の頭がじゃままで舞台が見えないことがないように）座席の脇か下に、傘置きやバック掛けがあると便利です。トイレの数を増やして下さい、2階にもあったらいいと思います。駐車場の整備もして、駐車可能台数をもう少し増やして欲しい。</p>	<p>客席数を減らしてでも間隔を広くとの意見ですが、客席が減ることによって困る方もいます。また、前後幅を広くすることは建築構造上、客席の段々を再構築する必要があり、時間的制約、音場の変化から現在の音響特性を維持することは困難とされています。</p> <p>客席については、前後間隔は、人間工学に基づいた椅子の設置により、十分ではありませんが、現在よりは前後間隔は広くなります。また、左右幅については、現在450mmですが、490mmに広げた席を設置する予定です。</p> <p>客席の千鳥配置および傘置きやバック掛けに関しましては、避難経路確保の関係から難しいと考えています。</p> <p>トイレにつきましては、催事の休憩時間に集中する現状から、現在ある1階トイレについては男女比率を考慮するほか、2階にも同様に男女比率を考慮したトイレを増設することを計画しています。</p> <p>駐車スペースの拡大については、色々な制約の中で、駐車整理の方法など、そのほか可能性を探りたいと考えています。</p>
10	<p>ピロティの上の屋上部分（テラス？）をカフェとして利用し、岩木山を眺めながらお茶を楽しむという、前川國男氏のオリジナル案の実現をしていただきたい。</p>	<p>車寄せ棟の屋上部分は、現在は有効な活用がされていませんでしたが、計画では、屋上部分はウッドデッキとし、喫茶室と連携したオープンカフェを設置し、だれもが気軽に立ち寄れる環境に整備をするなど、積極的な活用を考えています。</p>
11	<p>既存の食堂のメニューを、もっとおしゃれなものに変えて欲しい。</p>	<p>レストランのメニューは、幅広い年齢層に対応した構成が必要であり、その内容については、ニーズに配慮しながら、地場製品の積極的活用、オープンカフェへの対応も含め、今後、テナント事業者と検討したいと考えています。</p>
12	<p>管理棟リニューアルについて、レストラン部についてのリニューアルは内装等はもちろんですが、利用者の中でもとりわけ女性の方のニーズに答える部分として、食器や小物等をトータルデザインで統一されるのは良いかと思われ、弘前色の感じられるデザインの採用を取り入れてほしいものです。</p>	<p>「前川建築」、「弘前公園」をキーワードに統一感のある構成について検討したいと考えています。</p>
13	<p>管理棟とホール棟を結んでいるキャンピーの上について、ホールで音楽会などイベントが有るとき幕間にお茶したり、軽い食事を楽しんだり……。そんな時に（CAFE）が、全く機能していないと思います。キャンピーで繋がっているのでその屋根の部分を、積極的に活用して、人の行き来が出来る様考えては如何でしょうか？もちろん季節に関わらず機能していた方が良いかと思います。ガラスを使用したデザインでキャンピーを載せてみるのも一考かと……。進路としても、レストラン（CAFE）の一部としても、有効に活用出来ると思います。リニューアル時に是非考えてください。</p>	<p>管理棟とホール棟を結んでいる車寄せ棟の屋上についてはオープンカフェの設置を計画していますが、通年での活用の可能性についても検討したいと考えています。</p>

番号	意見等	回答
14	市民会館に現在用意してあるティンパニ椅子は長時間の演奏に適さないためKORBERGというドイツの会社のティンパニ椅子をお勧めします。	ご意見を参考にしたいと考えています。
15	最近の音楽ホールに用意してあるステージ椅子は、KOTOBUKIの椅子が圧倒的に多く、頑丈で座りやすいのでお勧めします。	現在舞台で使用している椅子については更新の予定です。ご意見を参考にしたいと考えています。
16	本番は立って指揮をするのが当然ですが、リハーサルや練習用に指揮者用の椅子も必要ではないかと思われます。特にお勧めの品物はありません。	ご意見を参考にしたいと考えています。
17	オーケストラピットの柵について、様々な公演を行うためには、オーケストラピットを降ろしたときの柵が必要です。現在、本会の定期公演で使用している物は、コンパネで簡易的に作ったものであり、20年以上も使用しているため、こちらも老朽化が激しいです。リニューアルと共に、市民会館専用の柵を用意していただければと思います。あるとないとは、照明効果が全く違いますし、最新のホールにはほとんど設置されているはずですが。（市民会館にないために、他団体へ、本会の物を貸し出ししたこともありました）	年に数回ではありますが、オーケストラピットを下げて使用する場合の安全対策が不十分と考えています。このことから、オーケストラピットの構成については、自動で柵が出るような構成にしたいと考えています。
18	楽屋については、利用者懇談会の開催時、楽屋の区割りや配置を変えるとのことでしたが、防音などについてはどのようにお考えでしょうか？楽屋で音出しが出来ないというのは、演奏者としてかなり辛いものがありますし、ステージと楽屋の距離がかなり近く、楽屋付近の音が筒抜けになっている場合もあります。また、楽屋のドアの開閉の音も気になります。	楽屋については、間取りの変更、増設及び防音対策について検討していきたいと考えています。
19	駐車場の区割りラインについて。 駐車場の拡張が難しいことは、利用者懇談会で分かりました。拡張が難しいのであれば、現駐車場に区割りラインを引いては如何でしょうか？現在のラインがない状態ですと、かなりスペースが無駄に使われ、催し物によってはもっと停められるのではないかと多い場合が多く見受けられます。	史跡津軽氏城跡保存管理計画の対象区域内であり、敷地に関して現状を変更する場合は、現状変更に関して、文化庁の許可が必要となります。 現在、市民会館の敷地の中で駐車に供している場所のアスファルト面への区画線の敷設は認められていませんが、駐車スペースの確保について検討していきたいと考えています。
20	休館中のイベント等について 休館中のイベントは、県立武道館（収容数5,000人）を利用することとし、武道館には、音響設備等についても配慮して下さるようお願いしてあるとのことでした。 武道館の収容能力があるといってもキャパだけの問題ではなく、そもそも武道館はスポーツを目的に建設されたものであって、音楽や舞台芸術を行うには程遠いものです。休館期間が一日でも短くなるように、一日も早いリニューアルオープンに期待します。	工事に伴う休館期間の短縮については、効率的かつ円滑な工程管理に努め工期の短縮に努力していきたいと考えています。

番号	意見等	回答
21	<p>弘前市民会館改修工事に関する参考意見</p> <p>リニューアルに当たっては、前川國男が当初意図した設計コンセプトとそれに基づく外部、内部の仕様などを大切にさせていただきたいと思います。細かな使い勝手や今日的な管理から、もうそぐわない点でいたし方ないとした事やよかれとした事が全体的な設計コンセプトから大きく外れるようなことが、起こりがちです。そんなことにならないよう十分配慮させていただきたいと思います。</p> <p>そのためには、今一度この市民会館に込めた当時の前川國男の設計意図を再確認する時間を、担当される方々が少しでも持たれてこのリニューアルに取り組みることが必要だと思います。また、長く、前川國男と接してこられ、市内の前川建築の設計・施工・監理に多くたずさわった前川建築事務所OBなどから助言を得ながら進めていただくことも、その意図に外れない大きな手助けになると思います。是非、実現させていただきたいと思います。また、改修完成した暁には発想を豊かにし、今までに無い形での市民会館の活用をお願いいたします。というのは、2006年5月14日、当会で前川生誕百年祭を市民会館で開催した際、大ホールでの講演会やコンサートはもとより、西側ガラス窓前面を使ってのアートパフォーマンス、ホールと管理棟を繋ぐテラスでのカフェなどを計画成功し、弘前市民会館全体がアートシーンとして成立する建物ということを証明しました。私たちに本当に次々と発想の答えをくれる建物なのです。</p> <p>先日の利用者懇談会での答弁を聞く限り、市側の改修に対する並々ならぬ意気込みを感じました。改修が成功裏に終了した後はその活用いかんでは、弘前市民会館は市民に愛されて続けるだけでなく、世界に向けて誇れる場所になると確信しております。すばらしい改修になることを心から願っております。</p>	<p>今回のリニューアルは、基本的には建築性能の健全化、建築意匠の復元、アメニティの充実、省エネ対策、的確な維持管理体制の構築等を重点としてとらえ、整備する計画となっています。</p> <p>このことから、外部の造形は基本的には変更はしないものの、過去に意匠が変更された部分については、復元等の対策を実施します。</p> <p>内部については、大幅な造形の変更はしないものの、照度の向上、会議室の防音対策、和室、楽屋、トイレ等の間取りの変更についても検討しているところです。</p> <p>市民会館は、利用者あつての施設であることから、整備においては、配慮しなければならない部分が数多くありますが、新たな芸術文化の創造の可能性の一助とするため、利便性、快適性については設計者の意図、意匠を尊重しながらも、できるだけ利用者の意見・要望に沿った整備を進めたいと考えています。</p>